

1986.7

愛鳥教育

NO.19

愛鳥教育研究会

愛鳥教育 NO.19

1986. 7

目次

巻頭言	下田 澄子	3
昭和61年度夏期研修会報告	杉田 優児	4
夏期研修会に参加して“さらに多くの討論を”	渡辺 研造	6
夏期研修会に参加して“コルリの姿に感激”	杉村千恵子	7
夏期研修会に参加して“身近になった野鳥”	桑原とし子	7
夏期研修会に参加して “大自然の中でこそ優しさが育つ”	渡辺 淳一	8
研究紹介宮城県 仙台市立中野小学校 「中野の自然と愛鳥活動」について	下田 澄子	9
ヨーロッパの愛鳥教育① イギリスにおける愛鳥教育	杉浦 嘉雄	13
総会のお知らせ		18
エール大学の自然保護の意識調査について		19
編集後記		



巻 頭 言

愛鳥教育研究会常務理事 下田澄子

文部省の奥井智久生先が、「学校教育における環境教育」と題されて、雑誌〈特集〉環境教育にお書きになられた中に、「環境教育は、人間を取り巻く自然および社会環境について正しい知識をもち、その環境をより快適に維持し、保全する能力や態度を培うことを目標として行われる教育である」とあります。また「環境教育には、少なくとも対象を直接的に観察し、対象からデータを得ていくという体験的・実践的な活動を欠かすことはできない」と言っておられます。

現在数々の愛鳥モデル校は、愛鳥活動に取り組んで、「野鳥に親しみ、知り、守る」の実践をして野鳥の可愛らしさに、心の底から感動し、また育すう時の親鳥の働きや、時にはへビや猫などとの痛ましいかわり合いに気づいて、子どもなりに自然の美しさ、はかなさ、むごさにふれ、そこからさらに、水や樹木、山林、野草、野原、生物、人の大切さを感じ取れるようにと努力しています。

中西悟堂先生の「野鳥記13」の小鳥の功德の項には、「金沢市金石町郊外の水田にウンカが大発生して、刈り入れをひかえた稲田三十町歩が、わずか二日間でぼろぼろになり、被害がどれだけ増大するかわからないいきおいの折、どこからかつバメの大群がやってきて防除隊に参加し、見るまにこれを駆除してお百姓さんをよろこばせた」「スズメが、ウンカや二化螟虫やアブラムシやヨコバイやアオムシといった大害虫の面々を、せっせと退治していることは、すでに多くの文献にあらわれているとおりだが、これらがどの位世間に読まれているかが問題である」「山間の炭焼小屋にいと、シジウウカラの一群が、人手の届かぬサワラやヒノキの梢の葉裏に、仰向けにぶらさがって

の害虫退治である。この一群は、翌日も、その翌日も、大体同じ時刻に、同じこの道を通っては、辛抱強く虫をさがす。そしてこのコースに虫がいなくなれば、別の新しいコースをたどる。シジウウカラの終日の生活がそれなのである」「一般の人は、見ていても目がないにひとしい。そういう小鳥の功績を、学者は学者の良心で事こまかく報告し、鳥類観察者は見のがさずに報告するが、それらの文献が大衆の目にとまらないのでは、もったいないことこの上ない」などのことをお書きになっておられます。(紙面、字数制限のため一部を記載させて頂きました)

「野鳥の名前がよくわからない」「野鳥について知らないので子どもたちに答えられない」「身近に野鳥がほんの少ししか見られない」「教科書の内容をわからせるのが精一ぱいでこれ以上内容を多くできない」等々よく聞きます。

しかし非常に物質的に恵まれ、それを当り前のことと思い、自分の思い通りにならないとすぐに生活をくずしていくような今の子どもたちの傾向を思いますと、困難な環境の中で営々として生きぬいている、小さな野鳥にぜひ目をむけさせ、主体的に自分の生活を考えさせたいと思うのです。

両先生のお書きになられたことを、教育の中でどのように考え、どのように取り入れるか、多くのご理解をいただけるものと考えますが、本文の研究校の歩みや研修会報告等もごらんいただき、地域の実態に適合した自然観察、野鳥愛護をぜひ活発にお進めくださいますようお願い致します。

また、これからもご研究の歩みや子どもたちの作品など、本誌にご寄稿、ご発表くださいますようお願い申し上げます。

昭和61年度夏期研修会の報告

学習院初等科教諭

杉田優児

今年度の夏期研修会は、静岡県支部の協力を得て、場所を富士山の麓の静岡県御殿場須走(すばしり)付近で実施しました。

《6月7日(出)》……天候 雨

16:30 須走バス停前集合。

16:45 旅館「大申学(だいしんがく)」へ。

〒410-14 静岡県駿東郡小山町須走171

☎0550-5-2234

17:45 夕食

18:30 自己紹介

19:30 模鳥作り実習会

指導 大木美鶴(おおき・みかく)先生

22:00 終了

《6月8日(回)》……天候 晴

5:00 バードウォッチング①

須走登山道(2合目付近)

8:00 朝食及び荷物整理

9:00 バードウォッチング②

腰切塚(こしきりづか)

12:30 まとめ

13:00 解散

1 模鳥作り実習会

大木美鶴(おおき・みかく)先生に指導をお願いして、模鳥作りの実習を行いました。これは、あらかじめ鳥の形をした発泡スチロールの胴体に針金で作った足を固定し、着色した羽根や脱脂綿を貼りつけることで模型の鳥を作るものです。脱脂綿を適当な大きさや形にちぎり、胴体や足に巻きつけ、それを水で約7倍に薄めたビニール糊(木工ボンド)で固定していきます。ビニール糊は、毛先の柔らかい刷毛(幅2~3センチ)で塗っていきませんが、塗りすぎは、乾燥が遅くなることと綿の柔らか味がなくなる理由からいけないそうです。刷毛にたっぷりビニール糊を含ませたら、容器の縁で毛先をしごいて余分な糊を取除きます。ビニール糊で湿らせた刷毛で巻きつけた脱脂綿をなでつけるようにするとよいとのこと。尾羽や翼は実際の羽を適当な長さに切り、ビニール糊

(薄めないそのままのもの)で貼りつけます。体の色に合うように色々な色の脱脂綿をその形に合わせて切り取り、先程貼った綿の上に重ねて貼りつけていきます。その都度、ビニール糊で固定していきます。目や嘴はプラスチック製の部品があり、それを差込んだりビニール糊を使って固定します。今回は、シジュウカラを製作しました。この「コットンバード」は、バードカービングやバードスティッキングのように正確な模型を作るといふのは少しねらいが異なるように思われましたが、こんな楽しみ方もあるのだということを知り、勉強になりました。子供たちに実習させたりすると結構楽しめるのではないかと思います。参加された先生の中には、大木先生に材料を一括注文し、子供たちのクラブ活動で実際に実践なさった方もいらっしゃるようです。やっていくうちに熱が入り、終了時刻が当初の予定よりも大幅に遅くなりましたが、大木先生も熱心に御指導下さり、大変有意義な実習ができました。

2 バードウォッチング①

昨晚降り続いた雨も上がり、出発する時に富士山がその姿を現してくれました。麓から見上げる富士山の姿は雄大でした。自家用車に分乗し、須走登山道を登り、途中の数箇所バードウォッチングをしました。2合目付近まで登りましたが、高度が高くなるにつれ出現する鳥の種類も確かに変化していくのがわかりました。辺りには騒音を出す物もなく、遠くでさえずる鳥の声もよく聞き取ることができました。以下、出現した鳥の名称を列挙します。

イカル、カッコウ、ビンズイ、メボソムシクイ、コルリ、カケス、ヒガラ、ホトトギス、アカハラ、コゲラ、ウグイス、ジュウイチ、キセキレイ、モズ(14種)

コルリは、藪の中でさえずることが多いのでなかなかその姿を見ることは難しいのですが、今回は参加者の渡辺淳一さんが執念で見つけて下さいました。枝葉が幾重にも重なっているの、その

姿を見通せる適当な場所を探すのに苦労しましたが、フィールドスコープでしっかり見ることができました。頭や背の青と胸の白がはっきり見てとれました。

ヒガラも間近に見ることができました。カラの仲間、後頭部にハゲのように見える部分があり、種類によってその形がいろいろです。ヒガラの黒帽子の後ろにある縦に長い棒状のハゲが確認できました。慣れてくると鳴き声で種類の違いがわかるようになるのとこのことですが、やはり姿で確認できた方がよいわけですし、そんな時、図鑑にはなかなか載っていない（たいていの図鑑では横からの姿しか載っていません）このような特徴をあらかじめ知っておくことは、中級者への一歩として大切なことだと思われました。

3 バードウォッチング②

場所を腰切塚（こしきりづか）に変えて行いました。塚というのは、かつての火口丘（噴火した跡）のことで、富士山には至る所にあるそうです。腰切塚は、富士山の南側にある富士山スカイライン（有料道路）の御殿場より（東側）の料金所のすぐ近くに位置しています。最近、自然観察路が整備され、私たちもそこを歩きながらバードウォッチングをしました。あまり人が通らないらしく、薄暗いところでは朽ちた倒木にコケがびっしりと生えていました。そんな中に次世代の若木が育ちつつあるのが観察され、森林全体の息づかいが伝わってくるように思われました。コースはいくつ

もあり、案内の立て札も整備されていて、安心して歩くことができます。時間をかけて歩き回ると本当にいろいろな観察ができるよいところだと思います。せっかくの自然観察路ですから、もっと大勢の人に利用してもらえるとよいと思います。かなり広い駐車場が設置され、手洗もあります。自然観察のポイントを解説した案内板はありませんでしたが、ゆたかな自然をそのままに感じとれることが一番の魅力でもあり、広く紹介されてよいところだと思います。以下、出現した鳥の名称を列挙します。

コルリ、ヒガラ、コガラ、メボソムシクイ、コゲラ、ウグイス、アオゲラ、ホトトギス、アカハラ、カケス、ハシボソガラス、ビンズイ、ジュウイチ、センダイムシクイ、アカゲラ（ひな・巣穴）、キビタキ、イカル（17種）

アカゲラのひなが巣穴の中から「キョッ、キョッ、キョッ、キョッ、……」と連続的に鳴いていました。親鳥に餌を求めるサインだということです。少し離れたところからフィールドスコープでのぞきましたが、巣穴の中までは見えません。親鳥が帰ってくるのを待とうかとも思いましたが、大勢であったのでこれでは親鳥は帰ってこれないと判断し、その場から離れました。人間の勝手な都合で彼等の生活を邪魔することは許されずです。私たちはあくまでも鳥たちの生活をのぞかせてもらっているのだという謙虚な気持ちを持つことが大切でしょう。



研修会当日渡辺淳一さんが撮影したセンダイムシクイです。

夏期研修会に参加して "さらに多くの討論を"

静岡県静岡野鳥愛護協会会長 渡辺研造

本年度第1回研修会を世話役として引受けるについて、あまり堅くなく、かと言ってあまり軟くない、しかも探鳥も実施しやすいところという条件で小山町須走に決めさせていただきました。

第1日目

宿泊予定の旅館、大変珍しい屋号の大申学へ午後4時前後相ついで集まって来ました。天候はあいにくの雨で明日の探鳥も気づかわれる状態でした。部屋割、夕食も酒なし(?)で自己紹介。下田先生から田村会長の欠席のことがつたえられた時は、久しぶりにお会いしたいと思っていた私は残念に思いました。

夜は6時30分より模鳥作りの実習で、静岡市の大木美鶴先生より懇切丁寧な指導を受け「シジュウカラ」づくりに挑戦。子供のころに戻っての悪戦苦闘、3時間かかってどうやら完成、でもとても楽しく第1日目の予定を終了することができました。

第2日目

気づかれた雨もあがり全員5時に宿舎の玄関に集合。予定された立山は露で足もとが不安定のため、須走登山道へ車に分乗し出かけました。

カッコウ、ビンズイ、コルリ、ホトトギス、メボソムシクイ等が出現。時間のたつのも忘れて探鳥しました。富士山も大きく、のしかかるように山容を現し今日1日の好天を約束してくれました。

8時過ぎ、宿舎にもどり朝食をすませ腰切塚へ向いました。国立青年の家、太郎坊登山口を経て水ヶ塚駐車場へ。東白塚、腰切塚と6キロの行程にいどみました。

緑深い広葉樹林の中は静寂そのものでした。時間の関係が野鳥の声をあまり聴くこともなく変化のない周遊道を歩きつづけました。途中マイズル草が群生し二人静や山芍薬の白い可愛い花を見たり、苔むした夢のような世界を見ることができました。お腹も大分ペコペコになった12時半、水ヶ塚駐車場の解散場所へ到着。杉浦先生、下田先生のお話、皆さんの感想でしめ、2日間の全日程を無事終えてお別れました。東京の人は御殿場方面へ、静岡の人は富士宮へ向いました。この腰切塚周辺は非常に多くの野鳥を見れるところで実際には朝4時ころから探鳥するのが良いと思います。

一週間おくれの日曜日に阿部さん達と再度探鳥したときは、カッコウ・ウグイス・アオジ・ホトトギス・コルリ・イカル・ミソサザイ・ビンズイ・コゲラ・ヒガラ・キビタキ・ウソ・ヤマガラ・コガラ・シジュウカラ・アカゲラ・ヤブサメ・アカハラ・ジュウイチ・ヒヨドリ・ツバメ・イワツバメ・トビ・ハシブトガラス・ハシボソガラス・カケス等27種も出会うことができました。

今回の夏期研修会は会場が適当か不適当かあまりに研修の時間が少なく、今少し時間をほしいように感じました。せっかくの集りですから愛鳥教育について先生方がそれぞれいろいろな抱負とか、成功した例とか、悩み等を持っていることと思います。それらを発表しあって参考にすることができましたら研修の意義がより倍加されたことと思います。毎回の研修会でいつも時間が少なく満たされない、しこりが残っているようで残念です。

私自身昨年北海道につづいて支部の結成に踏切り、先生方を中心に私達教職にないものは側面より協力の手を差しのべて発展を期したいと思いましたが、探鳥研修や巣箱、給餌台の作成指導を呼掛けても集らないのが現状です。此の原因は色々あると思います。現在の教員が多忙であり、上司の理解が全体としては少ないため参加しにくい面もあると思います。また6回も続いた愛鳥校のつどいも出席校が少ないため本年度より中止となり一歩後退した感が致します。又昨年度より県の事業として県内の14校を指定し年4回探鳥や巣箱作りを実施、ミニ野鳥の森の設置を指導。年度末にこれらの学校がその成果の発表をするつどいが開かれ、今年で2年目に入りましたが、少ない時間のためその成果が気になります。

東京世田谷区のように指定校には相当多額の助成金が交附されている例がありますが、地方においては指定されても指定のしっぱなしの状態が一般的です。これでは指導者の不足と共に成果のあがるはずもないと思います。

このような悩みに対し各先生方の助言をいただいて明るい未来を切開いて行きたいと思えます。そのためにも、研修会のもち方を夏期休暇にするとかの工夫をこらしていただきたいと思えます。

夏期研修会に参加して “コルリの姿に感激”

愛鳥教育研究会常務理事 杉村千恵子

今年から公費でしかも2名参加できることになり喜んで参加しました。いつも寝坊している日曜日の朝5時集合が心配でしたが、4時半にすっきり起床。一安心でした。車に乗せていただき山へ。「山の空気はおいしいなー。しかし、鳥の声はするけれどどこに鳥はいるんだらう。えっ、あんな遠くの木のとっぺんにいる。でも、シルエットになってよく分からない。えっ、イカルですか？はあ、くちばしが黄色い？だってまっ黒なシルエットにしか見えないけれど……」引卒してくださった先生方の疲れが、どっと今になって分かる気がします。しかし、すっかり童心(?)に帰ってしまいました。反面、自分が子供を連れて来ていたら、どうやって見つけて見せたらいいんだらうーそんな教師根性にもなり、内心人知れず蒼白になりかかったりしましたが……。とにかく、鳥をみつめるには知識がいるんだなあ、帰って来てビデオで

勉強したりしているこのごろです。

何よりも感激は、コルリの良い声がたくさん聞けた事と、見つけにくいと言われる姿をフィールドスコープで見られた事です。(目がいい方っているんだなあと変な所で感心しました。)

上をむいて口をあげ、今を盛りと鳴いている姿は、今も目に残っています。でも見せていただいたから見えましたが……自分で見つけられるようになりたいなあと思います。

とにかく、いい空気をすって、「いい人たち」と出会って、富士山を見て、そして自然と小鳥の姿に接し最高でした。東京に帰りたくなくなりました。また行きたいなー。そんな気持ちのこのごろです。お世話してくださった富士見支部の方々、保護連盟の方々、本当にありがとうございました。

また、来年お会いできるといいですね！

夏期研修会に参加して “身近になった野鳥”

世田谷区立船橋小学校教諭 桑原とし子

私の言える鳥、スズメ・ハト・カラス……小さい頃よく庭に来ていたオナガ、昨年の夏、山で会うことのできたライチョウ……がせいぜいです。こんな私が今回、愛鳥教育研究会夏期研修会に、学校の配慮もあり参加することができました。

私にとって初めての探鳥会。いろいろな鳥がたくさん見られるにちがいない。ただ、姿を見ても鳥の名がわからないから、ハンドブックだけは持っていこう。そんな軽い気持ちで宿を出ました。どんな鳥と出会えるのだろう…鳥の声が聞こえます。“チュピー、チュピー” “ツーツーツ、ジョイジョイジョイ”でも、鳥の姿が見えません。たまに、鳥の姿が木から木へ移るのがわかるだけです。鳥がそう簡単に姿を見せないのにびっくりしました。また、どんな鳥がいるのかというのは、姿を見るだけでなく、鳴き声で判断するのだとわかりました。探鳥会で見られた鳥は、イカル、ビ

ンズイ、コルリ、キセキレイ、メボソムシクイなどでした。どれもご一緒の方々に見せていただきましたが、鳥の姿に魅せられました。私も自分で鳥の声を覚え、探せるようになりたい。またそれを子供達にも教えたい。そんな気持ちになった探鳥会でした。

模鳥作りも教えて頂きました。鳥の形・色もわからない私が作れるのだろうか、半ばあきらめながら始めましたが、先生が、1つ1つ丁寧に教えてくださったので、何とか完成できました。自分で作ったということに加え、できた鳥もかわいらしいので、宝物が1つ増えたような気持ちでした。きっと、子供たちが作ってもそんな気持ちになるのではないかと思います。高学年の子供たちなら、私よりずっと正確に作れると思います。

鳥が身近に感じられ、これからが楽しみになりました。ありがとうございました。

夏期研修会に参加して “大自然の中でこそ優しさが育つ”

渡辺淳一

1年の経つのは早いものです。昨年、山中湖で実施された研修会には2人の友を連れ、はじめて参加させて頂きました。もう1年が経ってしまったわけです。今年も1人の友を連れ参加するつもりだったのですが、急きょお子さんの体調が思わしくないことから、やむなく淋しくも私1人となってしまいました。7日は仕事の泊り明けであった所為でもないですが、若干、体調がよくなかったのにもかかわらず最後まで研修会に専念でき、うれしく有難く思いました。

今回も富士山麓であり、かつて昭和9年の6月に日本野鳥の会の創設者である故中西悟堂先生が日本で初めて須走で探鳥会を実施された謂れのある、ここ須走の土地でもあり、また今から約7年前に当宿（大中学）の前の米山館の宿を借り、ひとりじっくり野鳥観察を楽しんだ思い出があります。この裏手になるのか、その山に登り、ぼつりと立つ切りぼっくに座り、雲一つない澄んだ朝の朱富士と、かつ澄んだ水の早流の浅間神社境内にて高い松の頂上でクロツグミの「トケー、トケー」を入れながら啼く、あの素晴らしく美しい声が約30分ほど私の心を思う存分に楽しませてくれました。有難いことに7年経った今も忘れることがありません。

今回の研修会も、豊富な計画であり満足して帰宅させて頂きました。しかし、まさか私に模鳥造りが、と半信半疑でした。百点満点ではないが、ほぼ完成に至った、その喜びを感じ得ることが出来ました。

8日の朝、まだ明けやらん3時40分頃のこと、ホトトギス、カッコウ、アカハラなどの、よく通る声に心の目が覚めました。その時、2階に宿して居た徳竹先生の話し声が窓を開ける音とともに聞こえて来ました。さすが徳竹先生と思いました。同室の方々は、ぐっすり(?)といった感じだったのですが私は居たたまれず1人外出、近くの浅間神社まで散歩がてら行って来ました。しかし、残念ながら、あの時の、囀りを聞いたクロツグミの期待はずれました。

5時に宿の前に集合し、さてこれから皆とバー

ドウォッチング。現地までの道程は静岡の地元の方々の車に便乗させて頂き、より富士の山麓に近づく。さすがまだある大自然を見せてくれました。大自然林の中で囀る野鳥達。やはり本当の大自然がなければ絶対にめぐり会えることのできない、貴重な自然と野鳥と人類と！。私の心には「自然破壊」と言う言葉は有り得ないし、また聞きたくもない。野鳥への思いやり、あるいは人のもっている本当の、否、真の優しい心とは、あの大自然の中での体験体得でもって、その大切な心が養われてゆくのでなければ人の優しい心とは偽りの心でしかないと考えてならない程でした。自然の中で体得する喜怒哀楽こそ人には大切であり、最も自然な有り方であり、かつ最も純粋な心がより完成に近づくことでありましょ。なぜか庇屈っぽくなってしまいましたが、私の一生の願望であります。是非とも、あのような広大な自然林の大自然があつて欲しいし、まるいまるい地球に、いつまでもとこしえに残してもらいたいし、残っていて欲しいものと常に自分なりに考えている次第です。いつ、どこを歩いて、あのうるわしく心の和む野鳥達の姿と啼き声が実際に観れたり聞けたりできたならば、と、有り得もしない現実ばなれのしたことを思ってみたりしている今日この頃です。

研修会は、やはり回ごとに自分なりに、なにかひとつでも心の記録として、一生の思い出として残る新しい刺激があればと思って、皆さんにとっては足手まといにしかありませんが、参加させて頂いております。研修会のつづく限り、今後も、是非参加させて頂きたく思っております。やはり、年に少なくとも1度は、この大自然の貴さを観に来なければいけませんよね。

この度は、静岡の地元の方々には、この研修会のために、いろいろ御足労をかけてしまい至極恐縮に思うと同時に、心から感謝しておる次第です。誠に有難うございました。今後も宜しく御協力の程お願い致します。また、一生忘れない思い出が一つ増えました。

〔研究紹介〕 宮城県仙台市立中野小学校 「中野の自然と愛鳥活動」について

愛鳥教育研究会常務理事 下田澄子

はじめに

この中野小は、昨年度の第20回、全国鳥獣保護実績発表大会で、日本鳥類保護連盟会長賞を受賞した小学校です。

したがって、愛鳥教育No.18のP18～P19に、受賞された実績の概要が掲載されています。なお本年度の総会（8月10日東京で開催予定）に研究発表をしていただくことになっておりますので、この研究紹介では、No.18との重複をさけ、同時に遠方その他の理由で、総会に出席不可能の方々に、愛鳥活動推進へのご参考になるように、またさらに私たちの指導を充実することができる話し合いが中野小の先生を中心に総会でくわしく行われるようにと願って書き進めました。

ただし本号は先月の夏の研修会報告など記事が多く、誌面に限りがあり、さらに私自身の力不足で十分なご紹介ができかねますので、くわしいことは直接中野小にお問い合わせいただきたいと思います。（仙台市立中野小学校は、仙台市中野字西原152、電話0222〈58〉2365 〒983 米森 繁校長。）中野小学校の校長先生、先生方、数々ご迷惑をおかけすることになりますが、何卒お許しくださいませようお願い致します。

1. 蒲生干潟と中野小学校（中野小学校岩淵先生執筆の河北新聞掲載記事より抜粋）

この蒲生干潟には春にはシベリアなど北の繁殖地へ、秋には東南アジア・オセアニアなどの南の越冬地へ、数千キロ飛び続けるシギ、チドリ類、冬には天然記念物コクガンをはじめ多数のガンカモ類が集まり、一年中野鳥の姿を見ることができます。確認された野鳥は約260種、面積は約14ヘクタール、1周約1時間かかります。また干潟の泥の中では、コメツキガニ・チゴガニ・貝類・ゴカイ類などたくさんの小さな生物が面白い行動を見せてくれます。また砂浜海岸には、ハマナス、ハマヒルガオ、ハマエンドウなどが、四季折々に美しく咲きます。

中野小では、57年度から野鳥観察を創意の時間に

位置づけ、59年度から海浜の動植物の学習を理科の時間に導入しました。（59年度仙台市教育課題研究発表会に、学校教育における地域素材の教材化〈ふるさとの教育〉について「蒲生干潟・蒲生海岸の動植物の観察を通して」の研究主題で研究発表会開催）

子どもたちは、初めは野鳥や動植物に対して全く無関心で、野鳥の名前などほとんど知りませんでしたが、「野鳥観察ノート」をつけたり、図鑑で調べたり、スケッチをしたり、野鳥クイズを楽しんでいる中に、野鳥が好きになり、高学年は、20～30種位見分けられるようになりました。そんな子どもたちの熱心さに、校医、PTA会長より望遠鏡7台、PTA会員より図鑑の寄附があり活動は一層活発になりました。

また干潟の清掃活動、テグス拾いなどから、子どもたちは地域を見つめなおし愛着を深めています。そして野鳥が住める環境を守ろうと干潟にくる人たちに呼びかけるようになりました。

中野小では、地域の自然や歴史を愛する子どもが育ってくれるように、副読本「私たちの中野」を制作し、子どもたちだけでなく、この高砂地域全体の皆さま方に読んでいただき、共に住みよい地域環境づくりを目標に努力を続けています。

2. 岩淵生先のこと（60年5月河北新聞記事より）

「生物の観察がやりたくてこの学校に来たんです。知る喜び、本物に触れる喜びは大きい。同じ鳥でもいろんな行動をする。歩き方もさまざまだし、エサの奪い合いなど本当に面白い。奥が深いですね」と言う。大学での専攻は生物学。専門は動物行動学でハエの研究をしてきたが、今ではすっかり野鳥のとりこ。野鳥クラブの顧問として指導の傍ら、休みの日は朝から晩まで望遠鏡をのぞきこむ。「昨年ジープ等に卵をつぶされ、1羽もいなくなったコアジサシが今年は来ている。だからどうしても自然を守らなければならない。子どもたちは教えなくてもそう思っています。」観察は児

童とのいわば競争。「僕も勉強しなければ、子どもを越そうと思って必死なんです」と語る先生の目は、鳥たちに限りなく優しくかった。

3. 地域素材の教材化と指導方法

(1) 学年のめあての野鳥

1年

ねらい……みじかなやちょうをおぼえよう。
 春～夏……スズメ、ツバメ、カラス、コサギ、ユリカモメ、トビ。
 秋～冬……春～夏の鳥とカモ（カモのなかまだとわかる。）
 できるよう……ずかんをみたり、えをかいたり
 になろう することができる。

2年

ねらい……みじかなやちょうをおぼえよう。
 春～夏……ムクドリ、ハシボソガラス、ハシバトガラス、キジバト、ヒバリ、セキレイ、ウミネコ。
 秋～冬……春～夏の鳥とカモ（カルガモ）
 できるよう……ずかんを見たり、絵をかいたり
 になろう することができる。

3年

ねらい……地域にすむいろいろな鳥を知る。
 春～夏……セグロセキレイ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、カルガモ、コアジサシ、オソリハシシギ。
 秋～冬……春～夏の鳥とコガモ、オナガガモ。
 できるよう……図かんでたしかめ、とくちょう
 になろう をとらえ絵にかくことができる。

4年

ねらい……水辺の鳥をよく観察し、資料で確かめることができる。
 春～夏……オオヨシキリ、アオサギ、バン、ダイゼン、ハマシギ、ハシビロガモ。
 秋～冬……カイツブリ、コクガン、ヒドリガモ、マガモ。
 できるよう……図かんで確かめ、特ちょうをと
 になろう らえ絵にかくことができる。

5年

ねらい……春、秋の渡り鳥を調べ、国から国へと移動する渡り鳥に興味を持つ。
 春～夏……カッコウ、アマサギ、ツルシギ、チュウシャクシギ、キョウジョシギ、ツグミ、メダイチドリ、トウネン。
 秋～冬……キョウジョシギ、キンクロハジロ、

ハシビロガモ、メダイチドリ、トウネン。

できるよう……資料を作る。図表、グラフ化になろう
 ことができ、正しい精密な描写ができる。

6年

ねらい……渡り鳥の行動をくわしく観察すると共に、野鳥や自然保護の大切さがわかる。
 春～夏……ムナグロ、コチドリ、オグロシギ、オバシギ、イソシギ、セグロカモメ、カワラヒワ他。
 秋～冬……キリアイ、オバシギ、ホシハジロ、ゴイサギ他。
 できるよう……資料を作る。図表、グラフ化になろう
 ことができ、正しい精密な描写ができる。

(2) 野鳥観察ノート 1

(月毎のまとめの表やノート) 8

月	4	5	6	7	8	9	10
鳥の名前							
シロチドリ	●	●					
ハマシギ	◎	①					
カルガモ	○	○					

◎100羽以上 ○50羽以上 ①10羽以上 ●10羽以下
 野鳥の名前は、チドリ、シギ、ガンカモ、サギ、カモメ、その他の種類の順に50種書かれています。

(3) 野鳥観察のための指導

A. 観察のための地図（蒲生干潟全体）

- ・春～夏、秋～冬にわけてつくられている。
- ・海、川、池、山など絵入りで記入。
- ・観察路の記入（モデルコース）。
- ・各場所に見られる野鳥の絵。
- ・危険箇所の記入。

B. 鳥を見分けるポイント

- ・スタイルいろいろ（図④参照）
 こまかい色やもようを見る前に、まず全体のスタイルをつかむようにしよう。

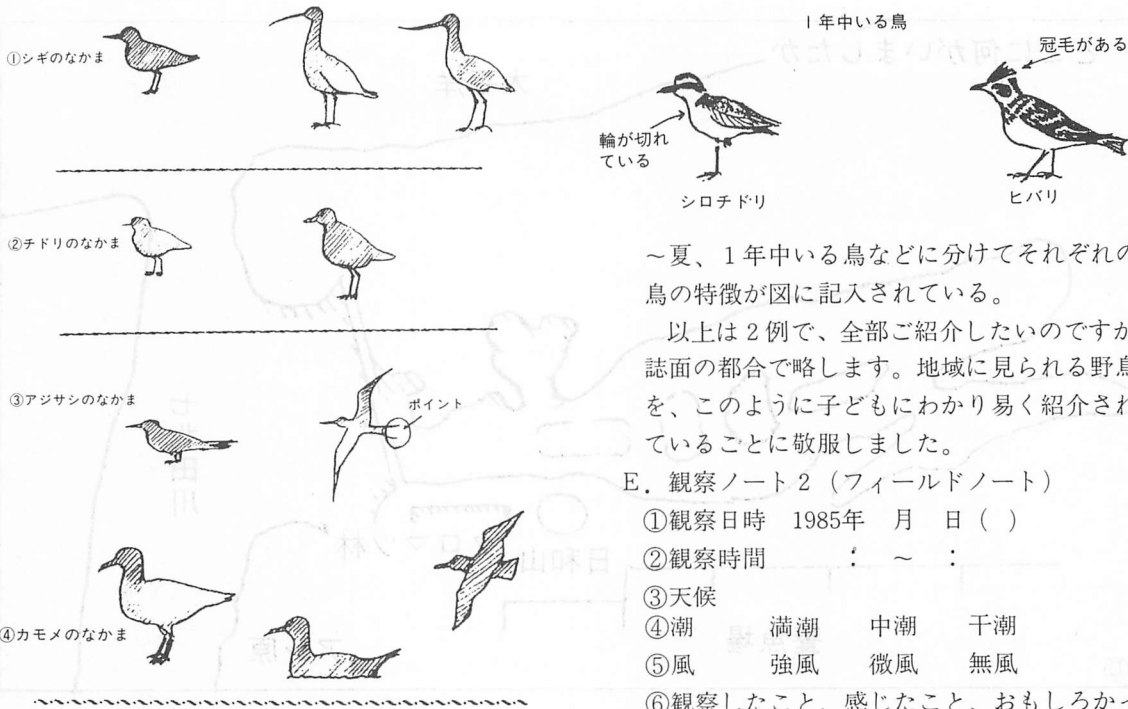
C. 大きさをくらべ（図⑤参照）

なかまがわかったら、つぎに大きさに注目する。大きさを知るには、ものさしになる鳥を、いつもよく観察しておいて、「カラス大」「キアシシギ大」と言えるようにする。

D. 蒲生の干潟でよく見られる鳥（図⑥参照）

これは、4・5・6年用としてあるが、春

1年中いる鳥



～夏、1年中いる鳥などに分けてそれぞれの鳥の特徴が図に記入されている。

以上は2例で、全部ご紹介したいのですが誌面の都合で略します。地域に見られる野鳥を、このように子どもにわかり易く紹介されていることに敬服しました。

E. 観察ノート2 (フィールドノート)

- ①観察日時 1985年 月 日 ()
- ②観察時間 : ~ :
- ③天候
- ④潮 満潮 中潮 干潮
- ⑤風 強風 微風 無風
- ⑥観察したこと、感じたこと、おもしろかったこと、わかったことなど

(註) 1 大きさ…スズメ大、ムクドリ大
キアシシギ大等

- 2 とび方…… ↗ →
- 3 歩き方…ニワトリ歩き、ウサギ歩き
- 4 エサの取り方
- 5 頭のかき方 その他

⑦気に入った鳥の絵をかこう

- (註) a. 大きさ
b. 鳴き声
c. とび方
d. 歩き方
e. 食べ方
f. 頭かき
g. その他
- これらのことは、絵をかきとところに小さく書きそえてある。

F. 蒲生海岸に見られる植物

これも植物の図とその特徴が記入され、子どもが見つけ易いように配慮されているもので、当校にすばらしい先生方が多くいらっしゃるのだという感を深くしました。

G. 学校周辺の自然案内図 A地点

これは蒲生海岸の砂浜の植物の観察地点とその説明です。

- ①「各学年の単元と関係する所」として、例えば1年は「はな」ヒルガオの種さがし、

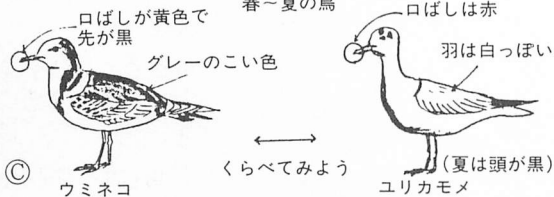
⑧

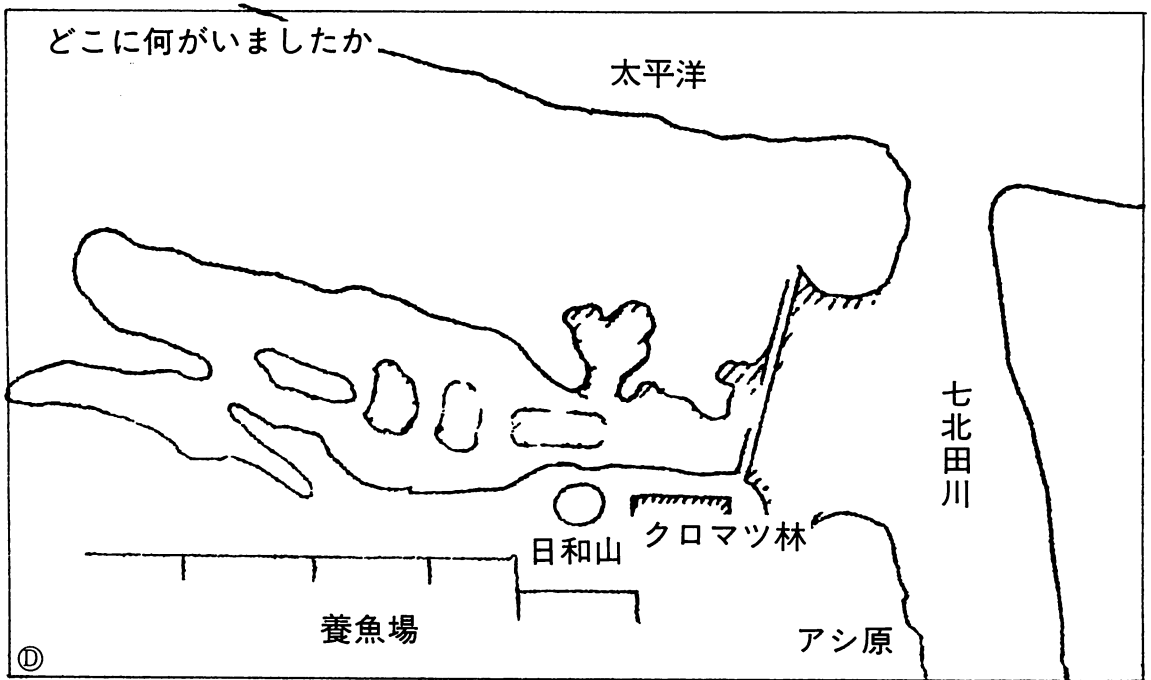
ものさしになる鳥



⑨ ウミネコ チュウシャクシギ キアシシギ トウネン

春～夏の鳥





2年は「草笛づくり」日なたと日かげの地面の暖かさの違い、砂ダンゴと土ダンゴ作りなど、各学年がこの地点で行う理科学習の内容が書かれています。

②ルートマップ（学校から徒歩10分、観察時間30分の地図が書かれています。）

③ルートの説明

②の地図内に記号が入っていて、そこでどのような植物を観察できるか、また植物のどの部分に着目するか、作業も生まれる感じに説明が行われています。

H. 観察ノート3（その時々まとめノート）

その時その時の観察がまとめられ、あとで比較すると、いろいろ発見できると考えられ

ます。（図①参照）

おわりに

たくさんの資料を送っていただきましたが、誌面の関係で非常に不十分な書き方になりましたことを深くお詫び申し上げます。

また、総会での研究発表が楽しみであり、あるいはご発表を前に書きすぎてしまった面もでてしまったのではとも思いましたが、ご出席になれない方に、出発点から非常に充実されていった過程をお知らせしたいという考え方で書かせていただきました。豊かな自然の中での活動例ですが、自然に恵まれない環境にも、参考にさせていただける面もあったと思います。校長先生はじめ、中野小の先生方に厚く御礼申し上げます。

イギリスにおける愛鳥教育

日本鳥類保護連盟主任 杉浦嘉雄

はじめに

(財)日本鳥類保護連盟の主要な活動のひとつに、愛鳥教育があります。この活動の充実をはかるため、(財)山階野生鳥獣保護研究振興財団の助成を受けて、1986年3月4日から3月16日まで、私は、ヨーロッパの愛鳥教育の現状を視察する機会を得ました。

取材先は、イギリス・フランス・オランダ・西ドイツの4カ国で、それぞれの国の鳥類保護団体と接触を得、鳥類保護・自然保護の現状、また、愛鳥教育の様子などの概要を知ることができました。

以下、今回のヨーロッパ視察で得た成果を、とりあえず、数回に分けて、この誌上で報告することにいたします。

今回はイギリスをとりあげ、公的教育制度の概要・民間の愛鳥教育の代表としての R S P B

(Royal Society for the Protection of Birds) の組織およびその愛鳥活動を中心に述べてみたいと思います。

なお、現時点では、詳しい論評を加えることは、あえてひかえることにします。これは、時間をかけて、じっくり検討したいということにもよりますが、あわせて日本の愛鳥教育の経過・現状・将来に関する分析が不可欠であることにもよります。

皆さまの率直なご意見・ご感想をお寄せ下さい。それらをもとに、このシリーズの最後に、日本における今後の愛鳥教育のあり方について、多少まとまった議論ができればと考えています。

1、イギリスの学校制度（義務教育課程を中心に）の概要

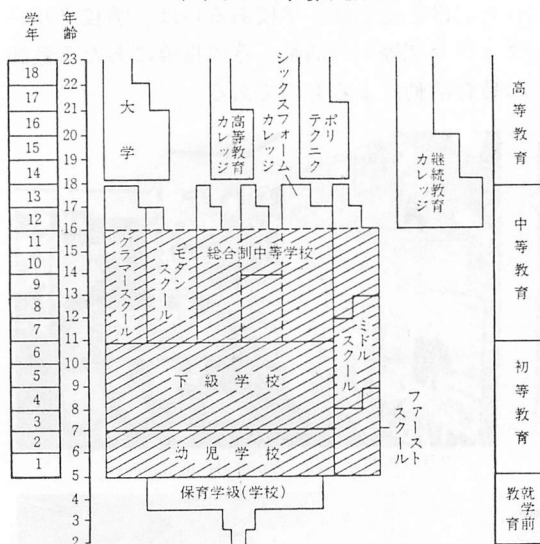
イギリスの学校制度は、初等・中等・継続教育（高等教育等）の3段階よりなる。

初等教育は、幼児学校（5～7才）と下級学校（7～11才）、または、同一学校内に保育部門と下級部門を併設した初等学校（5～11才）で行われる。

また、中等・継続教育については、初等教育

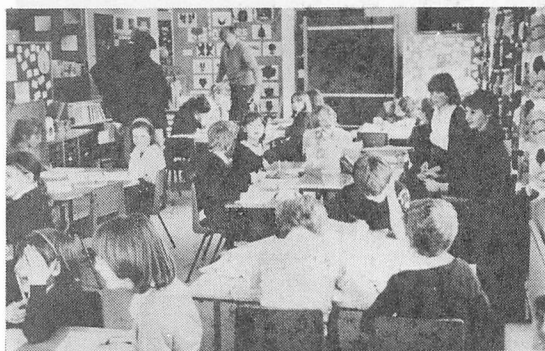
も含め、下記の図のようになる。

イギリスの学校系統図



以上の教育の中で義務教育は5才から16才までの11年間とされている。

(写真1：イギリスの典型的な下級学校のクラス・Sawtry County Junior Schoolの取材より)



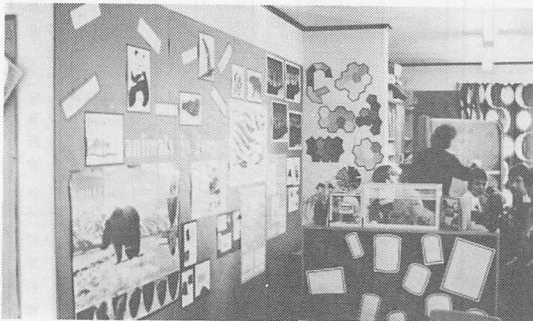
2、イギリスの教育行政の概要と愛鳥教育

教育行政は、国と地方教育当局LEA（105当局）、LEAと学校、といった各々のレベル間でのパートナーシップを基盤にして進められてきた。

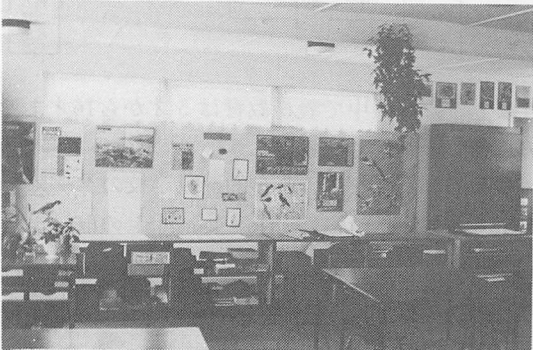
しかし、国は学校を運営したり、カリキュラムを決定したりはせず、前者はLEAに、後者

は各学校にLEAが委任した事項とされている。また教科書の選択、日常的な教育経営等についても、個々の学校(理事会および校長・教頭)に権限が委任されている。

したがって、義務教育課程における愛鳥教育活動も国(中央レベル)が指導する行事が極めて少なく(ex. 5月の休日に、国が主催し、RSPB・YOCが協力しての全国一斉のバードウォッチング大会がある程度という取材結果であった。)ほとんどは、学校あるいは、学校グループ(クラブ等)の活動、その指導にあたる教師の教育活動によるものである。



クラスの共同作品「Animals in danger」



学校グループの活動の場となる理科室より



理科室のドア—
エサ台にくる野鳥観察窓等の工夫がされている

3、イギリスの教科書の概要と愛鳥教育

イギリスでは、教科書textbook、授業で広く

使用されているトピック・ブックなどの学習資
書resource books、年鑑・事典・フィクシ
ョン・ノンフィクションなどの図書室用図書
library books の3種を学校図書school books
と総称している。このうち、教科書と学習資料
書との区別は、あまり明確ではない。

教科書の発行は、出版社の危険負担において自由に行われている。学校用図書を発行する出版社はおよそ400社を数えるが、採択数の少ない特殊な教科書とか、あるいは、学習プログラムの開発に多額な費用と長期間を要し、民間の出版社が手掛けたがらない種類の教科書の発行は、公的な機関がこれを行っている。ナッフィールド財団は、その代表例である。

愛鳥教育関係(鳥についての知識および鳥を題材にして自然保護を考えさせるもの)の内容が、どのような割合でできているかを、全体的に判断するのは難しいが、調査した資料からは、例えば生物系統の教科書の1項目「鳥について」のように、部分的なものが大半で、日本と同様その量は多くない。

直接、鳥を対象にした教師用指導書及び関係資料に関しては、取材できた公的機関、民間のものを通してRSPBの普及用のもの(後述)が質量ともに圧巻であった。公的機関のものでは直接鳥を題材にしたものは理科方面ではほとんど見当らなかったが、環境問題・自然保護全般を扱ったスクールズ・カウンシルパブリケーション「Project Environment」シリーズ4冊

- ・Ethics and environment
- ・Education for the environment
- ・The school outdoor resource area
- ・Learning from tails

ョンズ発行のはすぐれているとの定評である。

4、イギリスの代表的鳥類保護団体と愛鳥教育

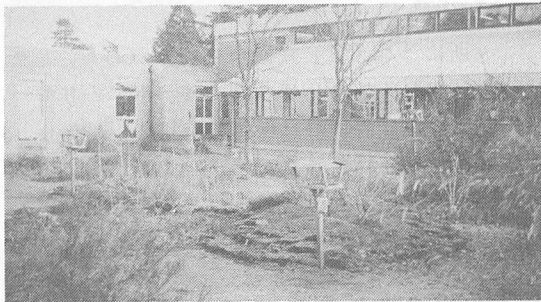
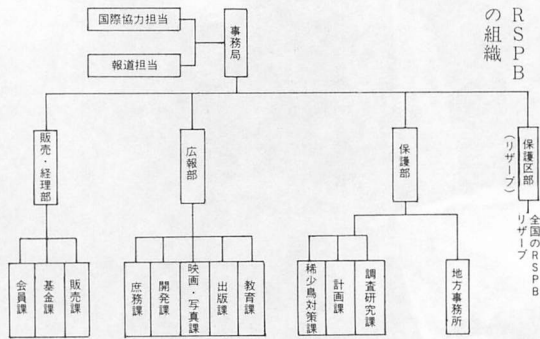
2で述べたように、愛鳥教育活動の主導権は、学校やその指導者である教師にゆだねられている。それ故、鳥類保護団体の役割は大きいものと思われるが、その中でも、会員数が、イギリス最大の鳥類保護団体RSPB(Royal Society for the Protection of Birds)は、その役割の中核を担っている。

(1)RSPBの概要

英国鳥類保護協会と呼ばれるこの組織は、関連組織(YOCという青少年対象の組織)も含

めると、約50万人の会員数である。150人もの職員がその任務にあっている。本部は、ロンドンから電車で約1時間の小さな町サンディーにある。緑にかこまれた良い環境で、その本部自体がリザーブ（鳥類保護区）になっている。

RSPBの組織は、次の図のように任務分担をしている。〔前年度より保護部内の保護区(リザーブ)課が独立し、現在では①リザーブ部②保護部③広報部④販売・経理部となっている。〕



RSPB本部自体がリザーブ その中庭からの様子

そのうち、愛鳥教育に直接かかわるところは、広報部教育課と、RSPB事務局に本部がある青少年組織YOC(The Young Ornithologists' Club)である。

(2)学校・教師を対象にした愛鳥教育

①年に3回各学校に野鳥やその保護を訴えたレター配布。ポスター大で、解説文がつく。表は生徒用、裏は教師用の情報が満載されている。

②教師のための研修コース

教師センターや大学等の施設を利用して、教育担当の職員が講師にあたる。約150コースがあるが、毎年約4000人の教師がそのコースを受けている。通信教育講座のコースもある。

③指導書（「教師やリーダーのためのプロジェクトガイド」）を発行。教科授業や野外活動の指導のための基礎知識・教材紹介がのっている。

参考までにその指導書のテーマ（代表例）を以下に述べる

- ・Birds and Mathematics
- ・Birds in Art and Craft
- ・Conservation & Bird Protection Bird Studies
- ・Bird Studies Using School Grounds
- ・Bird Flight
- ・Bird Movements and Migration
- ・Bird Behavior
- ・Bird and their Nests
- ・Feathers
- ・Water Birds
- ・Woods and Birds

(3)子供を対象にした愛鳥教育

①YOC(The Young Ornithologists' Club)という青少年対象の鳥類保護組織をつくり(10万人以上の会員)隔月に「Bird Life」とい

誌を発行する等、様々な活動をしている。

②学校グループにも積極的な結びつきがあり、学校グループそのもの(全員)がYOCに参加していることも多い。従って学校における愛鳥教育に大きく貢献しているといえる。

③子供のための野鳥や野鳥保護に関する教材やゲーム等をつくっている。

④子供たちを対象に、全国各地で自然観察を中心にした野外活動を、主にRSPB等のリザーブを利用して実施している。



YOC 会員の子供と YOC パンフレット (ハイドにて)

※(2)③については、報告書未の資料参照



Y O C 学校グループの子供達とその作品

(4) 愛鳥教育の活動の場としてのリザーブ

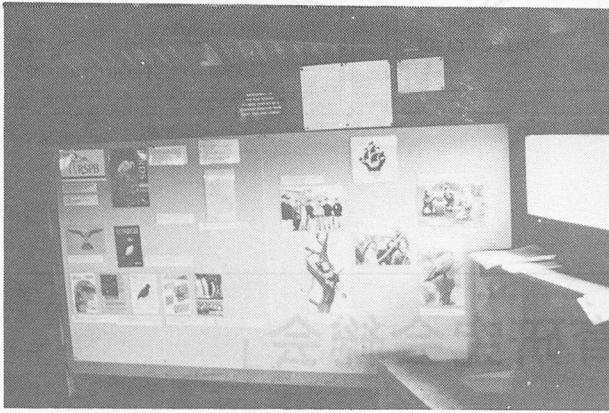
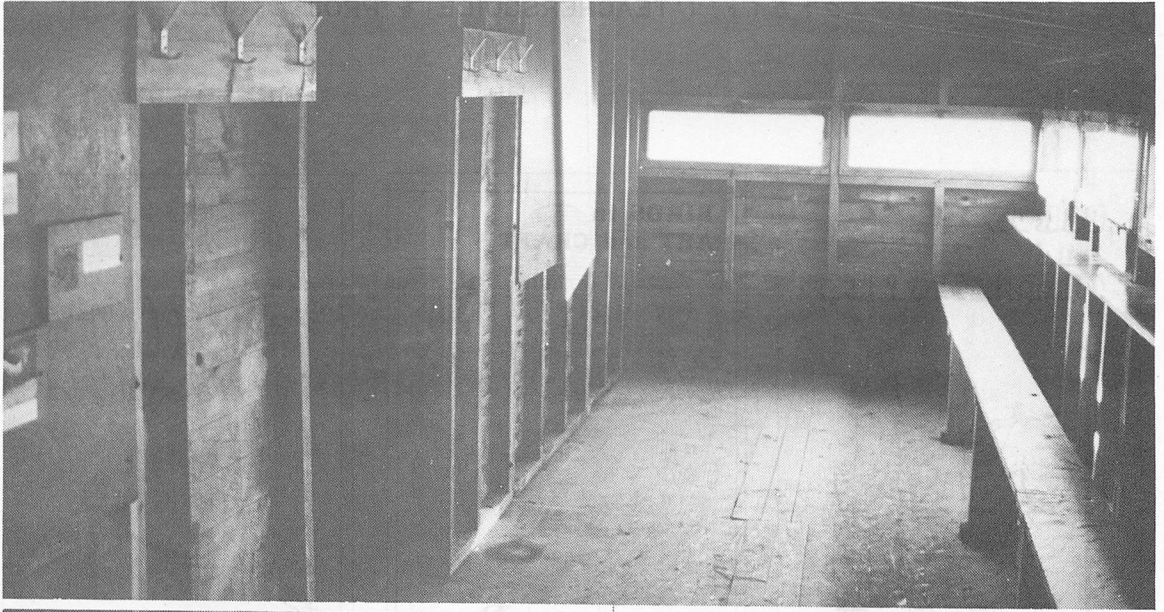
R S P B のリザーブは、全国で約 116ヶ所ある。代表的なその内部施設としては「ネイチャーセンター」(受付、展示、配布物、簡単なショップ等)があり、そこには「ウォーデン」(解説員)がいる。また観察コースにそって数

ヶ所に「ハイド」(観察小屋)がある。特に都市近郊のリザーブでは、本来のリザーブの意味(直接野鳥保護のための土地確保)よりも、むしろ愛鳥教育活動の舞台としての意味の方が大きい。

以下それに関する写真を添付する。



ハイドから戸外をながめる

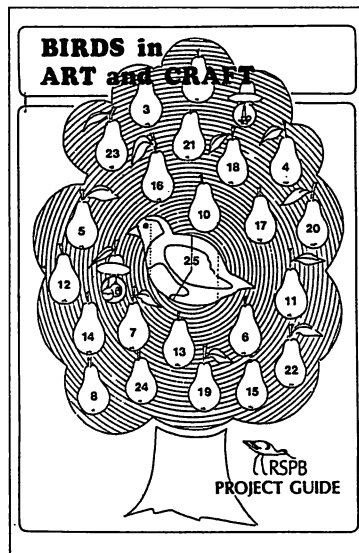
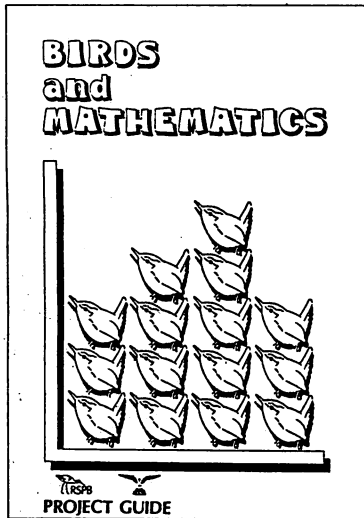


ハイドの内部の施設

車イス使用者の施設も多くのリザーブの中で数ヶ所ある



資料；RSPBのプロジェクトガイド（「TEACHERSGUIDE」を「PROJECTGUIDE」と改題）



「昭和61年度愛鳥教育研究会総会」のお知らせ

8月10日(日)午後1:30～午後4:30、学習院初等科（東京都新宿区）にて、昭和61年度総会が開催されます。会員の皆様には、別紙「総会出欠用紙」にご記入の上、愛鳥教育研究会事務局（（財）日本鳥類保護連盟）宛にご送付下さい。

〔期日〕 昭和61年8月10日(日)午後1:30～
4:30

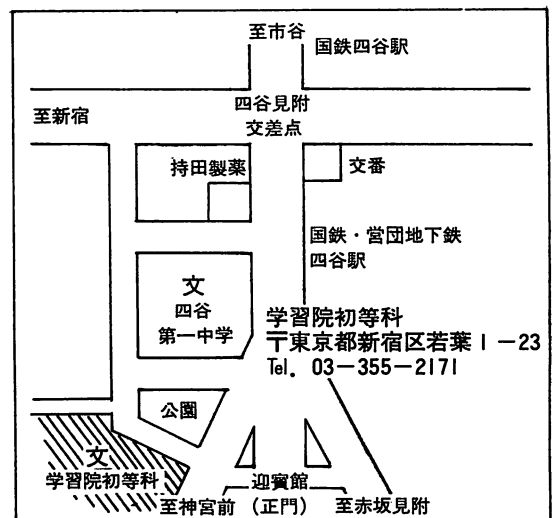
〔場所〕 学習院初等科（東京都新宿区）

〔時程〕 午後1:30 総会（事業報告及び計画・新役員決定等）

2:30 研究発表
（宮城県仙台市立中野小学校）

3:30 記念講演「野鳥のA.V.（オーディオ・ビデオ）」
（中坪礼治(財)日本鳥類保護連盟専務理事）

4:30 終了



エール大学の自然保護の意識調査について

米国エール大学森林環境学部のスティーベン・R・ケレルト博士は、米国、西独、日本における自然保護の意識を調査し、3国間の比較考察をする研究に着手しています。

日本では、政・財・官界、芸術家、宗教家、自然保護論者等60人に面接し、さらに約300人にアンケートを実施する計画です。

昭和61年6月10日に、博士は(財)日本鳥類保護連盟の中坪禮治専務理事と江原秀典事務局長に面接しました。

その際に博士が質問した内容は、次のものでした。

- (1) 日本人は環境、自然、野生動物(以下「自然環境」といいます)に関心が強いかどうか。その理由は。
- (2) 若い人と老人では自然環境に対する態度が違っているか。
- (3) 自然環境について、政府上部の者はどう考えているのか。
- (4) 大気汚染・騒音・ゴミ等の公害と自然保護のどちらを重要と考えているのか。
- (5) 経済が発展すれば、自然は破壊されてもよいと考える人が多いかどうか。
- (6) 日本では宗教、芸術上自然を特別に愛していると言われていたが、真実か。
- (7) 盆栽、生け花、庭づくりを楽しむ人がいるが、

なぜか。

- (8) 神道や仏教は日本人の自然環境への関心にどのような影響を与えたのか。
- (9) 京都の周辺の山林は、自然林が残っているが、なぜか。
- (10) 日本人はワニ皮など野生動物の加工品になぜ関心があるのか。
- (11) 野生動物のイラストを保護のシンボルとすることについて、効果があるのか。
- (12) タンチョウの減少した原因は、なにか。
- (13) テレビで鳥獣の生態が放映されれば、保護に効果があるか。
- (14) 日本人はどのようにして、自然を楽しんでいるのか。
- (15) 日本人は国立公園内で、どのような方法で自然を楽しむのか。
- (16) 日本の国立公園が観光、レクリエーションの対象となっているのは、なぜか。
- (17) 生態系、例えば食物連鎖は、国民に周知されているのか。

以上が博士の面接事項でした。

連盟は博士のアンケートに協力することになりましたが、連盟からのアンケートを受領された愛鳥教育研究会会員の方は、ぜひともご協力お願い致します。

編集後記

人手不足・お金不足で、てんでこまいの事務局ですが、会員の人たちにお手伝いしていただいていたなんとか総会前にすべりこみセーフ(?)で皆様にお送りすることができました。

しかし、それにもまして、申し訳ないのは、今回の原稿依頼が遅いにもかかわらず、総会前に発送ということで急いで印刷しなければならぬ条件をつけてしまい、せっかく提出していただいたにもかかわらず印刷が次号になってしまいました静岡の阿部さんのことです。この場を借りてお詫びいたします。……次号の「静岡の愛鳥作文コンクールから」を皆さん楽しみにしててください。それから…総会に参加いたしましょう!!

愛鳥教育 No.19

昭和61年7月20日

発行人 田村活三

発行所 愛鳥教育研究会

住 所 〒150東京都渋谷区宇田川町37-10
渋谷レジデンシャルオフィス405
(財)日本鳥類保護連盟内

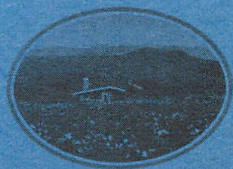
電 話 東京03(465)8601

郵便振替 東京2-92041

制 作 かなえ書房

■ (Song of Birds) 高原の鳥

高原の鳥



朝日を浴びた林の中から流れてくる朗らかな歌声。大自然のBGM。アナウンスなし。ウグイス・カ・コウ・ホトトギスなど。CD3,000円/TAPE2,000円(〒350円) 発行・アポロン音楽工業

■ (Song of Birds) 山と溪谷の鳥

山と溪谷の鳥



夜明けと共にとえすり始める小鳥のコーラス。大自然のBGM。アナウンスなし。アカハラ・コルリ・イカル・コガラなど。CD3,000円/TAPE2,000円(〒350円) 発行・アポロン音楽工業

■ (Song of Birds) 水辺と孤島の鳥

水辺と孤島の鳥



河口に青々と伸びた草原……。さいはての孤島から聞こえる鳥たちの合唱。大自然のBGM。オオヨシキリ・キアシシギ・タイゼンなど。CD3,000円/TAPE2,000円(〒350円) 発行・アポロン音楽工業

ポスター・この鳥に会いましたか (タテ三六cm×ヨコ一〇三cm) 五〇〇円(〒二〇〇〇円) 発行・日本鳥類保護連盟



JAPB フィールドショップ

7月一文月、徳見月、女郎花月、蘭月などの別名。そろそろ夏鳥たちが移動をはじめます。旅鳥のシギやチドリも姿を見せます。▶木立ちの中で、野鳥たちの子連れの群れに出会うと「元気かい」と声をかけなくなります。

■ NHK 四季に鳴く 日本の野鳥ベスト10

四季に鳴く



ウグイス・オオルリ・コマドリ・クロツグミ・キヒタキ・カ・コウ・ルリヒタキ・ヨシキリ・ノビタキ・ノコマ。アナウンスなし。CD3,000円/TAPE2,000円(〒350円) 発行・ポリドール

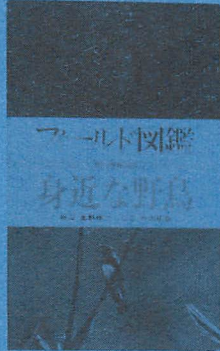
■ NHK 四季に鳴く 森の合唱

四季に鳴く



八ヶ岳南麓、富士山麓、青木ヶ原、戸隠高原、奥社・奥鞍馬、調路湿原、奄美大島の鳥たちのコーラス。BGM向き。アナウンスなし。CD3,000円/TAPE2,000円(〒350円) 発行・ポリドール

■ フィールド図鑑 身近な野鳥 二〇〇〇円(〒二五〇〇円)



発行・東海大出版会

解説・高野伸二 写真・吐内拓哉

■ フィールド図鑑 野鳥小図鑑 二〇〇〇円(〒二五〇〇円)



発行・東海大出版会

解説・高野伸二 写真・吐内拓哉

■ NHK 四季に鳴く 草むちの演奏家達

四季に鳴く



—アナウンスなし— 峡谷「奥秩父・三峰」オオルリ・ミソササエ・ヒガラ、アカハラ・シジュウカラ 渓流「奥利根・藤原」カシカガエル 懸崖「奥多摩」アブラセミ・ミンミンゼミ、ツクツクホウシ・ヒゲラン 田園の夜「武蔵野」エシマコオロギ・ウマオイ・ミツクドコオロギ・ツツレサセコオロギ 高原の夜「那須高原」カンタン・ヤブキリ 河原の夜「伊豆・狩野川」マツムシ・エンマコオロギ・カネタタキ・ツツレサセコオロギ・クダマキドキン・ハラオカメコオロギ CD3,000円/TAPE2,000円(〒350円) 発行・ポリドール

▶お申し込みは、現金書留または郵便振替でご送金ください。まとめて注文すると送料が安くなります。あらかじめ問い合せください。

▶販売物等の売上げは、愛鳥教育や小鳥がさえずる森づくり等、緑豊かな街づくりに取り組む連盟の活動資金に活用させていただきます。

▶〒は、送料(梱包料を含む)を表わします。

(財)日本鳥類保護連盟(JAPB) 〒150 東京都渋谷区宇田川町 37-10-405 ☎03-465-8601

郵便振替・東京5-19214